

日本版ドラッグ・コートを越えて

～処罰から治療へ、そして真の社会参加をめざして～

“Beyond Japanese Drug Court: From Punishment to Treatment, and toward Recovery”

趣 旨

わたしたちの共同研究グループは、これまで、10数年余の間、さまざまな研究助成を受けて、日本における薬物対策の問題を分析・検討してきました。この3年間は、文部科学省科学研究費の助成を得て、「薬物依存症者回復のための総合的研究～ドラッグ・コート導入のアクションプラン～」(2009～11年度科学研究助成基盤研究(B))についての共同研究を実施してきました。

今回のシンポジウムは、その総括にあたるもので、多くの方がたにわたしたちの研究成果を報告させていただきたいと思っています。

提 案

わたしたちの共同研究の結論は、まず、薬物の使用や所持を処罰し、刑事司法の中で薬物依存からの回復を考えようとする「日本版ドラッグ・コート」のスキームには限界があるということです。そして、いまひとつ、薬物依存症からの回復とは、ただ単に使用が止まっているということではなく、本当の意味での社会参加が実現することだということです。

そのために、新たにわたしたちが目指そうとしているアプローチは、インジャリー・プリヴェンション(injury prevention)と呼ばれている政策構想であり、この考え方を日本、韓国、台湾、中国、フィリピンなどの東アジア地域に広め、ドラッグ・コートを越えた新たな薬物対策を構築していくことにあります。今回のシンポジウムでは、「ドラッグ・コートを越えて」をテーマに新たなスキームを提案したいと思っています。

なお、シンポジウムには、OPEN SOCIETY INSTITUTE(OSI)・Global Drug Policy programの支援を受けています。

研究の発展段階

第1段階

「犯罪者の社会復帰と治療共同体に関する研究」(2001～03年度)

第2段階

「薬物依存症者のダイバージョン(ドラッグ・コート)に関する研究」(2005～07年度)

第3段階

「日本の薬物依存症者回復のための総合的研究～日本版ドラッグ・コートの導入～」(2009～11年度)
OSI・GLOBAL Drug Policy Program(2011年6月～12年5月)助成

第4段階

「東アジア地域における薬物対策に関する総合的研究～日本版ドラッグ・コートを越えて～」(2012年度～)

【お問い合わせ】

龍谷大学矯正・保護総合センター Tel.075-645-2040
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 Fax.075-645-2632